



がるがも



第45号

<http://www.pref.chiba.lg.jp/kodomo>

2016年〈平成28年〉10月



今年の夏は局地的な豪雨や迷走台風のために、九州から東北、北海道まで各地で浸水や土砂災害などの大きな被害が出ました。千葉でも急な雷や大雨に何度も驚かされました。日本近海の海面水温の上昇が基盤にあるようで、これからはこれが通常の日本の夏になるのかも知れません。被害に遭われた方には心よりお見舞いを申し上げます。

また、8月のリオデジャネイロ・オリンピックは、金12、銀8、銅21、計41個のメダル獲得で終わりました。福原愛選手の真剣な表情と銅メダル獲得後の涙、伊調馨選手を始めとしたレスリング女子のラスト30秒での3人連続逆転金メダルなど、思わず見入ってしまいました。各選手とも大会までの4年間、さぞ大変な努力であったと思います。自分の強みと弱点をしっかり認識し、メダル獲得という目標を達成するためのプランを定め、毎日の地道な練習により素晴らしい成果をおさめることができたのでしょう。

さて、今年度の当院の大きな行事としまして、2017年2月に日本医療機能評価機構の病院機能評価の4回目の受審をいたします。今では全国の多くの病院がこの病院機能評価を受審して認定を受けていますが、当院は2002年に千葉県内では5番目、独立型のこども病院としては全国で初めて、この認定を受けました。それ以来5年ごとに受審、認定を重ね、今回が4回目の受審となります。

わずか5年の間隔ですが、求められるレベルは毎

夏が終わって

病院長 星岡 明



回高くなっています。今回の審査で機構が求める病院像としては、「患者中心の医療の推進」、

「良質な医療の実践」、「理念達成に向けた組織運営」の3つが大きな柱です。1番目の「患者中心の医療の推進」では、患者に対する十分な説明と同意、患者支援体制、医療安全確保にむけた取り組みなどが検証されます。2番目の「良質な医療の実践」では、各部門の診療・ケアの質とともにチーム医療の実践が評価されます。3番目の「理念達成に向けた組織運営」では、病院の基本理念の徹底、教育研修の実績、危機管理体制などが審査されます。当院の状況を項目ごとに分析してみると、高いレベルで達成している強いところもあれば、やや弱いところもあります。当院の強みと弱みを認識し、ひとつひとつ改善して、当院の医療の質をレベルアップさせていく所存です。

これからも、このように外部の目で評価していただくなどして、こども中心の質の高い医療、安全安心の医療、皆様から信頼され満足していただける医療の実現にむけて、職員一同努力してまいりますので、ご指導、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

平成28年9月

こども・家族支援センター 地域医療連携室 事務職員の仕事紹介

千葉県こども病院は、地域医療支援病院として地域医療機関の皆様と機能分担を明確にし、連携を密にして地域の小児医療水準の向上に努めております。実際に皆様との連携を、日々、支えてくれているのは、事務職員の飯田、佐藤、漆原の3名です。おこさんご家族が安心して医療を受けられるように、こども・家族支援センターの窓口として活動しています。

具体的な仕事の内容は、紹介元医療機関の皆様へのお礼状発送、診療情報提供書の発送、記録媒体の返却の他、紹介率・逆紹介率等の統計資料作成等があります。

また、登録医の皆様へのインフォメーション及び申請登録などの業務も担っております。登録医の先生方とは、こども病院の利用として、入院診療及び手術への参加、高度医療機器（MRI・CT）の利用、症例研究会などの各種研修の開催、図書室の利用、医療・医薬



左から 佐藤、漆原、飯田

品情報等のお知らせなどにより支援機能を強化いたしまして、地域医療支援病院としてより一層、連携を深めてまいりたいと考えております。

新規に登録医の申請をご希望される場合は、こども・家族支援センター地域医療連携室までお問い合わせください。

こども・家族支援センター
副看護局長 梅津 千若

研修会・公開講座のお知らせ

●第7回千葉県小児臨床症例研究会

日時：平成28年10月26日（水）

19:30～21:00

会場：千葉県こども病院第一会議室

《ご紹介いただいた患者様の症例報告》

内分泌科：「O脚を主訴に当科を受診した3例」

脳神経外科：「新生児／乳児の頭蓋骨膜下血腫」

《小児診療における各科のポイント》

遺伝科：「先天異常を持つ小児に対する

診断アプローチと包括的な健康管理」

●平成28年度 超重症児を受け入れる

訪問看護師研修

日時：平成28年11月12日（土）9:30～16:30

会場：千葉県こども病院第一会議室

●第4回児童虐待防止研修会

日時：平成28年12月10日（土）14:00～17:00

会場：千葉県弁護士会館

仮テーマ：「児童相談所における児童虐待対応」

●平成28年度第2回県民公開講座

日時：平成29年1月22日（日）

13:30～15:30

会場：千葉県こども病院第一会議室

テーマ：「こどものメタボリック

シンドロームに潜む危険と予防法」

●平成28年度 超重症児を受け入れる

訪問看護師研修～実地編～

日時：平成29年3月3日（金）

9:00～16:00

会場：千葉県こども病院



診療科紹介
集中治療科

部長
杉村 洋子



みなさんの集中治療科に対するイメージはどんな感じでしょうか。『救命病棟24時』（古いですね）が最もイメージしやすいのかもしれませんが。チュニックを着て、重症者に対して様々なことを手順よくこなす医師の集団でしょうか。ところが、その集中治療科は日本では厚生労働省からは標榜科として認定されていません。したがって、病院内に集中治療科があったとしても、そこで働く医師の分類は公には集中治療医ではなく、内科や外科、小児科、麻酔科等となっているのです。そんな世間的には肩身の狭い集中治療科は、当院では現在1名です。差し詰め、松島奈々子（足元にも及びませんが）でしょうか。

一般的に、集中治療科医が働いている集中治療室（ICU）は大別すると2種類あります。閉鎖型と開放型です。閉鎖型は集中治療科医がICU患者さんの主治医となるタイプで、開放型は担当各科がそのまま主治医となり集中治療科はサポートに回るタイプです。こども病院では開放型をとっています。集中治療科は担当各科が不得



ICUスタッフ

手な部分をサポートし、時には主となり時には従となりながら各科と連携をとっています。

当ICUは1995年1月にオープンし、その後改修はされていないので老朽化が進んでいますが、大きな窓があり、非常に明るい造りになっています。ベッドの頭側が窓という配置のために、残念ながら入室中の子どもたちは外の景色を見ることができませんが、ICUスタッフや患者さんの家族にとっては、空が見えるのはいい気分転換になっているようです。もし千葉県こども病院小児集中治療室PICUにおいてになる機会がありましたら、明るさを体感してください。この明るさのように子供たちの笑顔が再び輝く日を信じて、日々仕事に励んでいるICUスタッフに会いに来てください。お待ちしております。

診療科紹介
遺伝科

医員
朽方 豊夢



左から 遺伝カウンセラー 秋山奈々、朽方医師

遺伝医療はヒトの多様性を科学する遺伝学を基盤とした専門医療です。遺伝科は、先天異常をもつ子どもたちに対して、正確な診断に基づく包括的な健康管理を提供することを目指しております。小児病院の入院患者は、時代や国をこえて、半数以上が遺伝性疾患など先天異常の範疇にある疾患であることが知られており、遺伝科は、先天異常の中でも主に染色体異常症や、多発奇形を伴う単一遺伝子病の診療に参画しております。また形態異常診断学と遺伝学的検査を用い、原因不明の多発奇形・発達遅滞を認める子どもの正確な診断を目指して診療にあたっております。

遺伝科医は認定遺伝カウンセラーと共同診療にあたっております。遺伝カウンセリングは、「疾患の遺伝学的関与について、その医学的影響、心理的影響、および家族への影響を人々が理解し適応していくことを助けるプロセスである。」と定義される医療行為です。私達は遺伝カウンセリングを通じて、先天異常をもつ子どもを授かった家族に対して、正確な医学的情報の提供と、心理的支援を行っております。

家族に遺伝科への受診をすすめるタイミングは時と

して難しく、家族が遺伝科受診の提案を bad news と受け止めることがあります。ご家族から「なぜこの子にこんな症状が？」や「次の子も同じ症状をもって生まれてくるのでしょうか？」といった言葉が聞かれた際は、遺伝科受診をおすすめる良い時機かもしれません。今年度より、常勤医がおりますので、早期に診療にあたらせていただきます。是非お気軽にご紹介ください。

先天異常をもつ子どもの数や健康管理が多岐にわたることを考慮しますと、当院のみに症例を集約することは困難です。私達は院内の診療連携とともに、病病連携・病診連携を重要視しております。子ども達にとって安全かつ最良の医療が提供していけるよう、先生方と共同し密な情報共有を行いたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

〈千葉県こども病院 登録医のご紹介〉

のせこどもクリニック

〒267-0066 千葉県千葉市緑区あすみが丘2-35-20
TEL043-226-5900 FAX 043-226-5901

のせこどもクリニックの能勢孝一郎です。平成10年1月に、JR土気駅南口にある医療ビルの2階で開業しました。開業前は新生児未熟児領域で長く仕事をしてきたので、開業後も隣接する産科クリニックの先生との連携を通して、新生児期の異常の早期発見や対応を行うべく、産科入院中の新生児の回診や1ヶ月健診、立会い分娩や出生後状態の悪い児の緊急対応を行ってきました。そんな中で重症新生児仮死児に対し挿管蘇生したり、トリソミーや横隔膜ヘルニアの出生後の診療を行ったり等々、通常の開業小児科医では経験出来ない様々な赤ちゃんの診療に立会うことになり、当然のことですが出生直後にこども病院に治療を委ねるケースにもしばしば関わってきました。

平成14年1月には現在のあすみが丘2丁目の戸建に移転し、働くお母さん達の支援目的に病児保育も開始しました。その後緑区内に2箇所、千葉市の助成を受けた病児保育施設がオープンし、低料金で利用出来るようになったため、これを期に当院での病児保育事業は終了としました。

平成23年6月には、日本小児科学会の呼びかけに応じ

診療時間 9時～11時30分
16時～17時
予防接種、乳幼児健診は別に時間枠を設けています

休診日 木曜日、土曜午後、日曜日、祝祭日



のせこどもクリニック 外観

て、一週間ほどクリニックを閉め、東日本大震災後の大船渡および陸前高田へ医療支援に出かけました。そんなこんなで開業19年目が過ぎようとしています。

こども病院には、重症患者さんの受入ればかりで無く、診断や治療に苦慮するケースも数多く診て頂いております。またカンファレンスを通して勉強の機会を与えていただき、大変感謝しております。これからもどうぞよろしくお願いしたいと思います。



クリニックスタッフ



能勢院長

西岡クリニック

〒290-0141 千葉県市原市ちはら台東1-2-13
TEL 0436-50-5855 FAX 0436-50-5530

西岡クリニック西岡です。

当院は、こども病院からほど近い市原市のちはら台にあります。開業して15年になります。標榜科は小児科、アレルギー科ですが、大学では内分泌疾患を、下志津病院、千葉東病院、国立千葉医療センターにてアレルギー疾患、腎疾患などの患者さんを診せていただき、現在に至っております。

プライマリーケア医ですので、感染症の方が多いのですが、それでも、ぜんそく、アレルギー性鼻炎、アトピー性皮膚炎などのアレルギー疾患、バセドウ病、糖尿病、成長ホルモン分泌不全性低身長など、内分泌疾患の患者さんも診せていただいています。スタッフにも恵まれ、的確なアドバイスができるよう努めております。近年は精神的な問題や発達の問題、子育てで疲れ切っているお母さんの問題など難しい状況に直面して、自分の力不足を感じ、頭を悩ませているところです。

ちいさい頃からのお付き合いで、成長時期に沿った、悩みや疾患にも出会い、一緒に、成長させてもらっている

診療時間 8時45分～12時
15時～18時
14時～15時は
予防接種、健診

休診日 木曜日、日曜日、祝祭日



西岡院長

気がしております。最近はお父さんお母さんや、おばあさんまで診せていただくようになり、間口は広いが奥行きが浅い”西岡商店”となっております。勉強して、プライマリーケア医として、対処ができるよう努力していくつもりです。

こども病院の先生方には、日頃から大変お世話になっております。重症の方は言うまでも無く、”西岡商店”では、判断のつかない患者さんをお願いして、ご苦勞をおかけしております。また、病院カンファレンスでのご指導や日頃の相談にも乗っていただき、本当に感謝しております。



西岡院長とクリニックスタッフ



西岡クリニック 外観